

救急支援システム実証実験の検証結果について

1 実証実験の目的

救急支援システムは、近年の救急需要の増大による救急搬送時間の短縮を図るため DX 化の導入により傷病者の受入要請をシステムによりデータを送信することで傷病者の予後向上と救急隊員の労務負担の軽減を目的に開発されたシステムです。システム活用により救急体制の維持・向上・効率化が見込めることから、導入に向けた方向性を検討するため実証実験を行うものです。

2 実証実験の内容

(1) 実証実験期間

令和5年12月1日（金）から令和6年1月31日（水）まで

(2) 参加消防機関

恵庭市消防本部 千歳市消防本部 北広島市消防本部

(3) 連携医療機関

ア 市内医療機関 恵み野病院 恵庭第一病院 えにわ病院

イ 市外医療機関 市立千歳市民病院 千歳豊友会病院 千歳第一病院 北星病院 北広島病院

3 検証結果

(1) 恵庭市内3医療機関におけるシステム活用件数並びに救急搬送の効率化（他市データ現在集計中）

実証実験期間における救急出動件数 512 件

救急支援システムを活用した件数 272 件（53%）

未活用理由～不搬送事案、転院搬送事案、頻回要請者や酩酊傷病者等の特異事案、12 誘導心電図伝送事案、連携以外のかかりつけ医療機関搬送事案の場合等

下表はシステム活用件数のうち、市内3医療機関へ搬送した事案を昨年度同時期と比較したもの

市内3医療機関搬送事案

	病院選定開始～病院決定 ※受入要請1回の平均時間	病院選定開始～病院決定 ※受入要請2～3回の平均時
システムによる要請	5分10秒	5分7秒
電話連絡 (昨年度同時期)	5分12秒	13分38秒

(2) 本システムでは情報を文字や画像により可視化を図りながら一度に複数の医療機関と共有し迅速な搬送が可能となり、時間短縮効果が得られました。また、医療機関から受入を断られた場合に救急隊員が同じ説明を繰り返す必要がなく、救急活動の効率化が図られています。このことから、本システムは、傷病者、医療機関及び救急隊にとって有用性が高く導入目的を十分に達することが可能であると判断できます。

4 システム導入見込

令和6年度は、札幌圏域での広域的な運用を考慮し、他社製システムにて実証実験を行い、比較検討を行い連携していただく医療機関のご意見を伺いながら令和7年度の導入に向け検討を進めて参ります。